

DATA FILE



名前	AQUAMARINE (アクアマリン) / 藍玉
化学組成	$Be_3Al_2Si_6O_{18}$
色	青色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	不明瞭
断面	貝殻状
硬度	7.5 ~ 8
比重	2.7

アクアマリン

AQUAMARINE

緑柱石のなかで宝石としての価値を持つ青色のものを「アクアマリン」という。

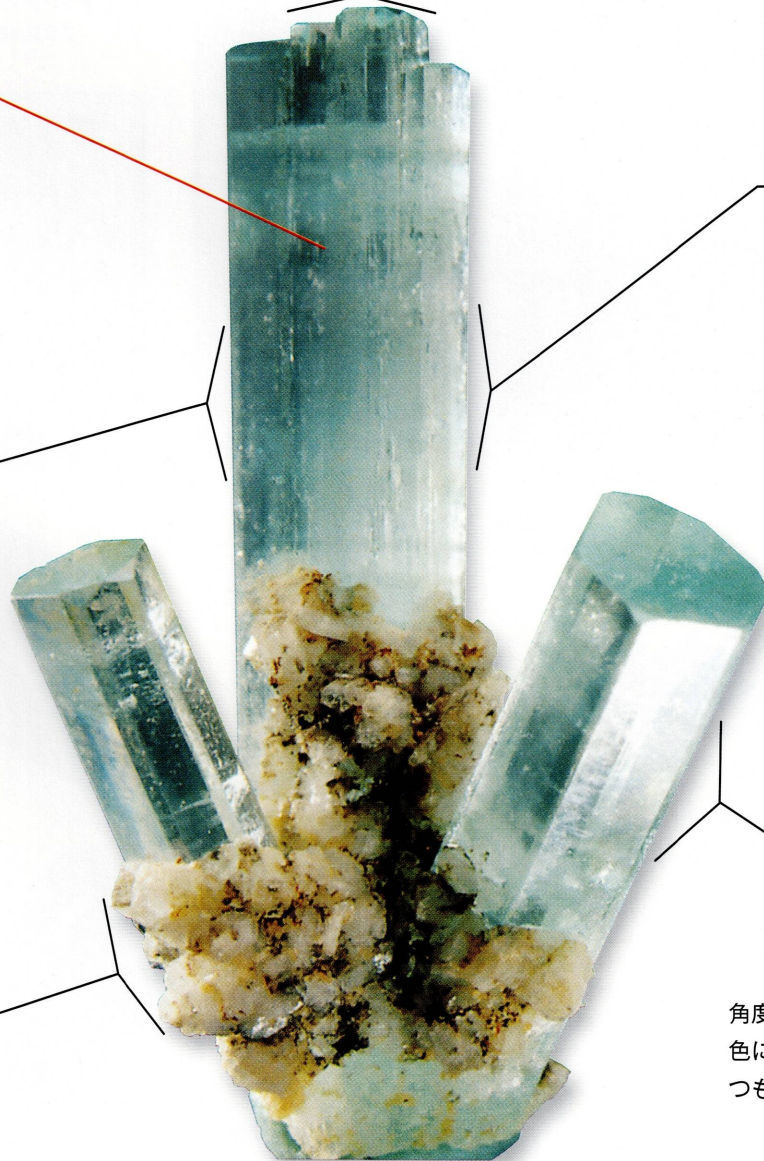
主要産出国のひとつであるパキスタンで見つかったアクアマリンの結晶。

ガラスのような光沢を持つ。

劈開は不明瞭で、ハンマーでたたくと貝殻状の断面を示す。

角度によって青色や無色に見える二色性を持つものもある。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。



青色の緑柱石

緑柱石といわれる鉱物のなかでも、宝石級の質を持つ青色透明のものをアクアマリンという。青緑色から濃いスカイブルーまで広く存在するアクアマリンの青色は、副成分としてわずかに含む鉄分によるもので、一般的にムラのない均等な色合いで産出する。緑色の緑柱石であるエメラルドとは異なり、アクアマリンの場合は傷や包有物の少ない大型結晶で産出することが多い。副成分として白雲母や赤鉄鉱、チタン鉄鉱の結晶、液滴などを包有する場合は、これらの副成分が結晶中に薄く平行に並んだ隙間をつくり、そこに入り込んだ液体やガスが動き回る様子が見えることもある。また、角度によって青色や無色に見える珍しいアクアマリンもあり、その現象は「二色性」と呼ばれている。

アクアマリンの存在は紀元前3世紀頃から知られ、その青色が海を連想させることから、ブローチなどに加工されて航海の安全を守る石として用いられていたという。



▶アクアマリンの柱状結晶。
ブラジル産。

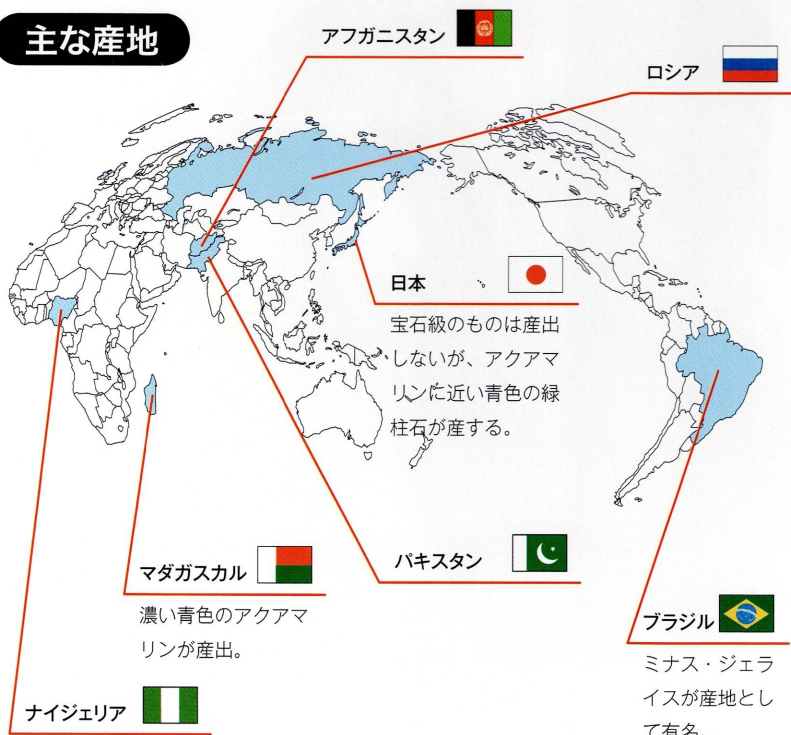


▲ブラジルのミナス・ジェライスで産出したアクアマリンの結晶。

アクアマリンのイミテーション

完全に透明で濁りのないアクアマリンの結晶はとても高価なので、イミテーションが作られることが多い。イミテーションの材料になるのは、ガラス、人工スピネル、ガンマ線を照射したブルートパーズなど。また、青色ではない緑柱石に熱処理を施して人工的に青色にしたものも多く存在する。

主な産地



▲▶カットが施されたアクアマリン。